

研究指導の概要

■ 生命農学学位プログラム

【課程：博士後期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	<p>生命機能化学講究Ⅰ・動物生命科学講究Ⅰ・応用微生物学講究Ⅰ・生物化学工学講究Ⅰ（通年）：各領域に関する学術論文等を収集・講読させ、既存研究の内容を理解して専門知識を広め、研究動向を把握するように指導する。その上で、取り組む研究課題を設定させ、その課題を解決するための研究計画を立案させる。必要に応じ、研究計画の修正等を指導し、また研究課題を解決するための専門的な研究法や実験法、データのまとめ方や解析法を教授する。</p> <p>一年次達成度審査：入学時に、3名以上の教員（研究指導担当教員を含む）からなるアドバイザー・コミッティを設置し、年度末までに、一年次で達成すべきコンピテンスを満たしているかについて、確認・指導する。</p>
		B	
		C	
	秋	A	
		B	
		C	
2 年 次	春	A	<p>生命機能化学講究Ⅱ・動物生命科学講究Ⅱ・応用微生物学講究Ⅱ・生物化学工学講究Ⅱ（通年）：各領域における研究課題について、立案した計画に沿って研究を遂行するように指導する。得られた実験データ等を解析させ、論理的に考察させることで、課題設定時に立てた仮説が正しいかを検証させ、必要に応じて、仮説や研究計画の修正等を指導する。また、得られた研究成果を国際学会等で発表させ、英語力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。</p> <p>二年次達成度審査：アドバイザー・コミッティが、年度末までに、二年次で達成すべきコンピテンスを満たしているか確認・指導する。</p>
		B	
		C	
	秋	A	
		B	
		C	
3 年 次	春	A	<p>生命機能化学講究Ⅲ・動物生命科学講究Ⅲ・応用微生物学講究Ⅲ・生物化学工学講究Ⅲ（通年）：各領域における研究課題について、自ら考えて研究を進めるように指導する。得られた研究成果を、英語の学術論文としてまとめさせ、体系的な思考力、科学的・論理的な考察力、英語力やプレゼンテーション能力を深化させる。必要に応じて、論文の修正やレフェリーのコメントへの対応について指導し、国際学術誌に公表させる。</p> <p>学位論文の作成・審査（10月～1月）：学位論文の予備審査・論文審査・最終試験により、修了要件の一部を満たしていることを確認する。</p> <p>最終達成度審査（2月）：学位プログラムにおいて、達成すべきコンピテンスをすべて満たしているかについて確認する。</p>
		B	
		C	
	秋	A	
		B	
		C	